

一般社団法人 教育システム情報学会

Japanese Society for
Information and Systems in Education

ニュース・レター No.219



発行日 2019年3月31日

発行所

一般社団法人
教育システム情報学会

発行者 仲林 清

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358 番地 5

アカデミーセンター

URL <http://www.jsise.org>

E-MAIL secretariat@jsise.org



第 44 回全国大会案内・・・・・・・・・・・・・2	科研費申請支援のご案内・・・・・・・・・・・・・20
第 1 回研究会開催案内・・・・・・・・・・・・・5	研究会報告年間購読の申し込み・・・・・・・・・・・・・21
第 6 回研究会開催報告・・・・・・・・・・・・・7	本学会研究会における
特集論文研究会開催報告・・・・・・・・・・・・・9	不適切な質問等への対応について・・・・・・・・・・・・・22
北信越支部主催ワークショップ開催報告・・・・・10	支部活動報告・・・・・・・・・・・・・23
関西支部産学連携研究会開催報告・・・・・・・・・・・・・11	学会 Twitter, Facebook のご案内・・・・・・・・・・・・・24
関東支部「リサーチ・コ・コ・コモンズ」	他団体協賛・後援のお知らせ・・・・・・・・・・・・・25
開催報告・・・・・・・・・・・・・12	会費納入のお願い・・・・・・・・・・・・・26
関西支部 若手研究者フォーラム	事務局より・・・・・・・・・・・・・28
「研究企画ゼミ」開催報告・・・・・・・・・・・・・13	会員専用ページの案内,
学生研究発表会開催報告・・・・・・・・・・・・・14	学会誌・研究報告バックナンバーのご案内,
関東支部総会開催案内・・・・・・・・・・・・・15	新入会員のご紹介,
学会誌特集号論文募集・・・・・・・・・・・・・16	入会のご案内
英文誌論文募集・・・・・・・・・・・・・18	





第 44 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ： 知の共有支援技術で支えるレジリエントな学び

<http://www.jsise.org/taikai/2019/>

- 開催日時： 2019 年 9 月 11 日(水) ～ 9 月 13 日(金)
- 会 場： 静岡大学 浜松キャンパス（静岡県浜松市中区城北 3-5-1）
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 大会日程（予定）

9 月 11 日（水）	
午前	プレカンファレンス
昼	企業ランチョンセミナー
午後	オープニングセッション，基調講演，企業セッション，インタラクティブ（ポスター・デモ）セッション，一般・企画セッション
9 月 12 日（木）	
午前	一般・企画セッション
昼	企業ランチョンセミナー
午後	各種表彰，メインイベント，インタラクティブ（ポスター・デモ）セッション，学生研究特別セッション（インタラクティブ（ポスター・デモ）発表），一般・企画セッション
夜	懇親会
9 月 13 日（金）	
午前	一般・企画セッション
午後	クロージングセッション，大会奨励賞表彰，現地校主催イベント

(*) 大会日程は変更される可能性があります。

■ 交通アクセスについて

<http://www.inf.shizuoka.ac.jp/access/>

＜JR 浜松駅から＞

JR 東海浜松駅前北口バスターミナル 15,16 番のりばから全路線「静岡大学」下車

（所要時間約 20 分、1 時間に 10 本程度運行）。片道運賃 210 円（2019 年 2 月時点）。

遠鉄バスは自社の電子マネーを採用しており，Suica 等の交通系電子マネーには対応しておりませんのでご注意ください（バス車内に両替機がございます）。

■ 大会までのスケジュール

投稿締め切りの後に、参加申し込みが開始されます。発表者には、参加申し込み開始時にメールでご連絡いたします。

- 2019 年 4 月 18 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2019 年 5 月 22 日(水) 講演申込締切
- 2019 年 6 月 18 日(火) 投稿締切
- 2019 年 6 月 20 日(木) 参加申込開始
- 2019 年 7 月 18 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2019 年 8 月 13 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2019 年 8 月 22 日(木) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2019 年 8 月 23 日(金) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ 企画セッション

1. 小型ハードウェアと電子工作による教育システム・ツールの開発
2. ICT を活用した PBL(problem / project based learning)の支援
3. SDGs (Sustainable Development Goals) に貢献する教育システム
4. 対話 (dialogue) は学習にどのような役割を果たしているのか
5. 連携教育やハッカソンなどにおける実践・実務・関心指向の学習支援
6. AI/ロボット/VR・AR を活用した学習・教育支援のイノベーション・リノベーション
7. 学習データの先進的・実効的な利活用とその課題
8. 医療・看護・福祉領域におけるロボット, ICT 等活用教育
9. 新技術と教育情報を活用した教育学習環境の設計
10. 初等教育におけるプログラミング教育
11. 実践的な e ラーニングと学習支援システムの開発・運用

■ 講演論文集について

第 37 回大会より講演論文集の印刷を廃止し、CD-ROM、および Web による配布としております。Web 版の講演論文集は、2019 年 9 月 2 日(月)に大会参加者のみに公開され、2020 年 3 月 1 日(日)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会

E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2019 年度 第 1 回研究会 開催案内

担当者： 加藤泰久，北村士郎，仲林清，真嶋由貴恵，松居辰則，森本容介（研究会委員会）

■テーマ：

学習環境デザインと実践のモデル／学習データの分析と応用／医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援／その他

※学習分析学会（JASLA）研究会と合同開催です。この特徴を活かした合同のイベントを企画中です。

■開催日時：

2019 年 5 月 11 日（土）

■開催場所：

キャンパス・イノベーションセンター東京

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

<http://www.cictokyo.jp/>

■趣旨：

本年度第 1 回研究会は、「学習環境デザインと実践のモデル／学習データの分析と応用／医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援」のテーマで実施いたします。

「学習環境デザインと実践のモデル」に関しては、大学や企業における人材開発や組織マネジメントとの連携、学習コンテンツ設計、インストラクショナルデザイン、品質評価、学習者支援、ブレンデッドラーニング、インフォーマルラーニングなどの方法論、e ラーニングツール、システム、実践環境やモデルに関する提案・開発・応用など幅広いトピックスに関するご発表を募集いたします。さらに、動的かつ非構造的な知識や技術を適応的・持続的に学ぶための学習環境デザイン、長期的な視点からの学習評価法について、萌芽的な取り組みに関する発表を歓迎いたします。

「学習データの分析と応用」に関しては学習データの収集・分析・可視化に関する理論・技術・実践に関する幅広い発表を募集し、実効性の高い学習データの分析と利活用の可能性や課題について議論したいと思います。

「医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援」に関しては、マルチメディアを活用した e ラーニングが多く医療系大学や病院などに導入され、ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習、新しい知識の定着、医療・看護技術の習得などで、高い学習効果が得られたことが報告されています。本研究会では、医療・看護・福祉分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント、学習者支援、学習コンテンツの設計、インストラクショナルデザイン、医療シミュレーション教材の開発や実践、医療サービスの質保証ならびに質評価、e ラーニング教材制作、臨床や教育機関での実践・運営環境、著作権処理に関する様々なトピックを扱い、この分

野における専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法について、議論を進めていきたいと思います。

その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

■発表時間：

通常の発表(原稿あり)は 25 分(発表 17 分、質疑 7 分、入れ替え 1 分)を、原稿なし発表は 15 分(発表、質疑、意見交換等を自由にアレンジ)を予定しております。

■発表者の方へ：

執筆要領、投稿方法、原稿なし発表の方法などは、以下のページでご確認ください。

http://www.jsise.org/society/committee/2019/CFP_1st.html

■参加費等：

研究会への参加は無料です。研究報告（講演論文集）は、1,000 円で当日購入できます。研究報告は電子化されており、インターネット経由でダウンロードするか、受付に準備する USB メモリからコピーしていただきます。詳しくは以下のページをご覧ください。

http://www.jsise.org/utility/information/howto_jrr.html

■懇親会：

研究会終了後、懇親会を開催する予定です。会費は 4000～5000 円の予定です。後日、第 1 回研究会 Web ページに申込方法（申込先や申込締切日等）を掲示します。

■お問い合わせ先：

松居辰則（早稲田大学、第 1 回研究会担当委員）

E-mail: matsui-t@waseda.jp（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



2018 年度第 6 回研究会 開催報告

担当：西野和典（九州工業大学）、西端律子（畿央大学）、鷹岡亮（山口大学）、
浅羽修丈（北九州市立大学）、山本樹（創価大学）、
永田奈央美（静岡産業大学）、長谷川理（武蔵野大学）

■テーマ：

プログラミング教育と情報の科学的理解／一般

■開催日時：

2019 年 3 月 16 日（土） 10:00 - 16:40

■会場：

武蔵野大学 有明キャンパス 1 号館

2019 年 3 月 16 日（土）に、武蔵野大学有明キャンパスを会場として、特集論文研究会と合同で第 6 回研究会を開催しました。今回の研究会テーマは「プログラミング教育と情報の科学的理解」で 29 件のご発表がありました。

具体的には、動画による回答を可能とした SCORM 教材、英語学習用コーパス、GitHub 習熟度メトリクス、裸眼 3D 視線一致型テレビ会議システム、メタ認知尺度、ICT を活用した防災教育・学習、ループリック、情報倫理をテーマとした協調学習など、プログラミング教育のみならず幅広い研究発表が 3 つの会場で行われ、発表後の質疑でも活発な議論が行われました。

第 6 回研究会の参加者数は 68 名で、特集論文研究会とあわせて 95 名の方に全国各地からご参加いただきました。研究会終了後には特集論文研究会と合同懇親会も行われ、学術的な交流を深めることができました。

なお、29 件の発表テーマは以下のとおりです。

- 動画による回答を可能とした SCORM 教材の開発
- 女子学生の自画写真評価と自動卒業アルバム制作システムの開発
- 予習動画教材を用いた英語教育の実践
- 知識構成型ジグソー法を用いた創造力を育むプログラミング教育の実践と評価
- プログラミング教育必修化時代の到来に合わせた ET プログラミングの再考
- プログラミング教育に向けたオンラインレポジトリを活用した英語学習用コーパスの作成
- C# プログラミング教育における反転授業の実施
- 情報の科学的理解を育成するプログラミング教材の開発
- 画像比較による俯瞰的プログラミング能力評価のための可視化コンテンツ組生成
- GitHub 習熟度メトリクスの作成とシステム開発 PBL における習熟度および活動の評価
- ポジティブ心理学における接近目標に基づく目標達成共有システムの開発

- 次代保育者のICT教育活用実践技能の重要性
- メキシコおよび周辺国在住日本語教師のスライド使用実態調査
- 政府統計からデータ処理向け教材を生成する手法の検討
- 説明文作成と問題演習からなる文書力育成のための教育の検討と実践
- 裸眼3D視線一致型テレビ会議システムを用いた高校・大学間遠隔対話型学習のデザインと実践
- 裸眼3D視線一致型テレビ会議システムを用いた遠隔芸術系実技試験対策学習
- 視線一致型テレビ会議システムにおける遠隔面接試験の実用性について
- 電子黒板を用いた授業において「教師が見える」ことがノートテイキングに及ぼす影響
- 成人用メタ認知尺度の改善と大学初年次学生を対象とした測定
- 和差算数文章題の言語・数式・空間表現の相互変換における数量の役割付けとしての自己説明演習の設計・開発
- 代数文章題立式の概念構造操作としてのタスク化と支援システムの設計開発および実践運用
- 災害時の避難行動選択のための逆思考問題を用いた学習支援アプリの開発と評価
- 解釈型学習による古代史系博物館における展示物への関心度向上に関する研究
- 歴史的な地方都市におけるICTを活用した住民参加型地域防災マップの評価
- 防災マップ作成をテーマとしたICT活用型防災学習の実践
- 子ども達の主体的な学びを促進する学修支援システムの検討
- 適切なループリックの作成支援機能を備えた「ループリックバンク」の開発
- 情報倫理をテーマとした協調的学習による望ましい判断・行動への影



2018 年度特集論文研究会 開催報告

担当者： 学会誌編集委員長 小西 達裕（静岡大学）

■テーマ： 人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進

■開催日時： 2019 年 3 月 16 日（土）

■会場： 武蔵野大学 有明キャンパス

■発表件数： 16 件 / 参加者数 44 名

■概要：

今日，社会に大きな影響を及ぼしている人工知能，IoT を駆使する学習・教育を促す研究を広く募集し，二つの部屋の並行にて進行しました。特に，ビッグデータのマイニングを通じた学習・教育の促進や，IoT デバイスを通して収集した教育・学習の記録の活用など，多岐に渡り，大変熱心に議論が行われました。また，同じフロアーで同時開催している第 6 回研究会とも相互に参加自由となっており，2 つの研究会を合わせ約 95 名の方が参加されました。

特集論文研究会は，通常の研究会とは異なり，2020 年 4 月発行予定の学会誌特集号への投稿を促進することを目的とし，特集号と同じテーマを設定しました。論文執筆の知見・アイデアを生み出すため，希望する発表者には原稿を閲読し，コメントを提供しました。また，議論時間を確保するため，発表に 20 分，質疑応答に 20 分を設定しました。フロアーからの疑問点を洗い出し，特に気になる点については，丁寧に議論を深めていました。本研究会テーマに呼応いただいた発表者の論文投稿の弾みとなれば幸いです。

最後に，閲読者のみなさまには，原稿を丁寧に読み込み，的確なコメントを頂きました。6 つのセッションの座長には，有意義な議論を導いてくださいました。会場のみなさまには，疑問点を提供いただき，議論を深めてくださいました。審査員には，各会場を巡回して受賞選定の評価をいただきました。長谷川 理先生（武蔵野大学）をはじめ，学生スタッフに会場を運営いただきました。ここに謝意を表します。



北信越支部ワークショップ 「成果発表を磨く」開催報告

担当者： 長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）
野瀬裕昭（長野県工科短期大学校）

北信越支部の学生研究発表会の開催に先立ち、3月4日（月）に、しいのき迎賓館（石川県金沢市）にて若手研究者育成ワークショップ「成果発表を磨く」を開催しました。博士課程に在籍する学生を主な対象として、北信越支部が独自に開催する定例のイベントです。日頃の研究成果をさらにブラッシュアップし、論文投稿へと結びつけてゆく事を目的とし、今回で5回目の開催となりました。発表対象者を北信越支部に限定せず広く募集し、今回は1名の博士課程に在学する院生より申し込みをいただきました。

ワークショップでは最初に、JSiSE 北信越支部長である北陸先端科学技術大学院大学の長谷川忍先生から、博士課程の目的・役割に関する情報提供をいただきました。これに続き、この情報を基にフロアでのディスカッションを行い、様々な立場から博士課程とその修了者に求められる教育の質や役割、さらには求められる人材像などについて活発な討論が行われました。

意見交換の後、博士課程の院生1名（信州大学大学院総合工学系研究科システム開発工学専攻・三池克明さん）から研究内容に関するプレゼンテーションが行われ、フロアでの討論が行われました。プレゼンテーションの内容に対し参加者から多数の質疑やコメントが寄せられ、研究の位置づけの明確化や研究の方向性、個々の技術的問題に対するアドバイス、さらには新たな応用分野の提案など幅広い議論となりました。今後の研究を遂行する上で、様々な意見を基に方向性を考えていただく大変良い機会となりました。また、討論では多数の方に積極的に発言いただき、大変活発なワークショップとなりました。論文投稿への弾みとなれば幸いです。



JSiSE 北信越支部長・長谷川先生による情報提供



2018 年度関西支部産学連携研究会報告

担当者： 畑耕治郎（大手前大学）、宮崎誠（畿央大学）、
原田ゆかり（株式会社ワークアカデミー）

■テーマ：次世代の教育を考える ～産学連携事例，IT 企業の人材教育・求める人材から～

■開催日：2019 年月 2 月 17 日（日）

■会 場：UMEDAI 大阪・梅田会議室

■概 要：

2019 年 2 月 17 日に UMEDAI 大阪・梅田会議室にて、「次世代の教育を考える ～産学連携事例，IT 企業の人材教育・求める人材から～」をテーマに 2018 年度関西支部産学連携研究会を開催いたしました。当日は 31 名の方々にご参加いただき、はじめて研究会に参加される企業関係者も見られるなど、普段と違った顔ぶれによる研究会となりました。

招待講演では、経済産業省近畿経済産業局産業部次長の石原康行様より 2025 年に大阪で開催が決定している万博に関連した未来のビジネスや次世代教育についてご講演いただきました。続く産学連携報告では、近畿大学×株式会社テイジエールによる IoT・AI 技術者を育成する産学連携型の教育プログラムの取り組みと畿央大学×フジテレビキッズによるプログラミング教育の取り組みが報告されました。さらにサイボウズ株式会社と株式会社ウフルからは、両社の人材育成の取り組みを紹介いただくとともに大学生に期待していることをお話いただきました。

研究会終了後に開催された名刺交換会（情報交換会）では、活発な議論や情報交換が行われ、産学交流のよい機会となりました。

なお、2018 年度関西支部産学連携研究会で発表されたタイトルは、以下の通りです。

- 万博と 2025 年の未来ビジネス ～次世代に求められる発想人材と組織～
- 近大×テイジエールによる産学連携型教育プログラム
- 畿央大学×フジテレビキッズによるプログラミング教育
- 会社説明会から読み取る、
サイボウズの求める人材像と教育の考え方
- 「次世代の学びと実践」
～society5.0 に向けた自治体との取組～





関東支部主催：リサーチ・コ・コ・コモンズ開催報告

担当者： 教育システム情報学会関東支部

教育システム情報学会関東支部では、産業・学術・実践の3分野の交流の促進及び3分野の連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を3月2日（土）に早稲田大学早稲田キャンパスにて実施致しました。

イベントでは関東・東北・四国地方の大学や企業関係者から11件のポスター展示及びライトニングトークがなされ、実践研究のデモを交えたプレゼンテーションや積極的な議論の様子が見られました。

今回、ご発表及びご参加頂きました皆さまには厚く御礼申し上げます。

今後、教育システム情報学会関東支部では3分野、特に産業界と教育実践の現場との連携を視野に入れた学術イベントの企画実施を進めて行きたいと考えております。





2018 年度 関西支部 若手研究者フォーラム 「研究企画ゼミ」開催報告

担当者：大山牧子，尾崎拓郎，瀬田和久，谷野圭亮，村上正行

■開催日：2019 年 3 月 27 日（水）13:00～18:00

■会場：大阪府立大学 i-site なんば

■概要

2019 年 3 月 27 日に，大阪府立大学 i-site において関西支部若手研究者フォーラムを開催しました．今回は主に，学位取得を目標に研究されている方，そして今後，教育現場で実践研究をされる方を対象に，新たな視点，着想を得る場として，また，ご自身の研究への理解を多面的な視座より深め，学位論文執筆へ向けた研究ストーリーを皆で共創する機会となるようじっくり議論できる場とすることを目指しました．そのため，通常の研究会よりやや長い 1 件あたり 40 分（発表 20 分，質疑 20 分）の時間を設けました．

7 名の方にご発表頂きましたタイトルは以下の通りです．

- (1) 尾崎 拓郎：LMS の学習行動ログを活用した学習支援システム開発
- (2) Emmanuel Ayedoun：第二言語コミュニケーション意欲を高める会話エージェントに関する研究
- (3) 福永 裕輝：算数・数学を中核に据えた濃度指導のあり方-STEAM教育の観点を踏まえて-
- (4) 和田 拓也：観察からの知識創造支援のためのフィールドワーク型学習支援基盤の構築
- (5) 谷野 圭亮：英語学習への内発的動機づけを高める支援について
- (6) 油谷 知岐：セマンティクスアウェアなプレゼン教材に基づくメタ学習の知的支援システム
- (7) 芦田 淳：小説執筆のためのアイデア導出支援と対話への応用

各発表とも大変活発で建設的な議論になりました．その後の懇親会でも，それぞれの研究の価値は何か，価値の高い知見とするためにはどうすればよいのかなど，様々な話題について情報共有や議論ができ，研究交流やネットワーキングの場になったのではないかと思います．





2018 年度 JSiSE 学生研究発表会の開催報告

人材育成委員会

越智洋司（近畿大）

後藤田中（香川大）

2018 年度 JSiSE 学生研究発表会が例年同様に 2019 年 2 月末から 3 月中旬にかけて、北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州、沖縄の 9 地区で開催されました。発表件数は 124 件、来場者数は 301 名と増加し、各会場とも盛況な研究発表会となりました。各地区の優秀な発表については、優秀発表賞および優秀ポスター発表賞として選定されています。

表彰情報については、学会 Web サイトで後日公開しますのでご覧ください。

開催地区	開催場所 実行委員長	開催日 (2019 年)	発表件数	来場者数
北海道	千歳科学技術大学 小松川浩（千歳科学技術大学）	3 月 6 日（水）	11	33
北信越	しいのき迎賓館 長谷川忍（北陸先端科学技術大学院大学）	3 月 5 日（火）	6	18
関東	ホテルあかね（合宿形式） 山本樹（創価大学）	3 月 4 日（月） ～3 月 5 日（火）	12	22
東海	愛知県立大学サテライトキャンパス （名古屋駅前） 吉根 勝美（南山大学）	3 月 7 日（木）	10	24
関西	関西学院大学大阪梅田キャンパス 河野 稔（兵庫大学）	2 月 28 日（木）	38	90
中国	広島市立大学サテライトキャンパス 岩根 典之（広島市立大学）	3 月 2 日（土）	30	61
四国	鳴門教育大学 光原 弘幸（徳島大学）	3 月 14 日（木）	5	22
九州	J:COM ホルトホール大分 坪倉 篤志（日本文理大学）	3 月 9 日（土）	7	19
沖縄	琉球大学 谷口 祐治（琉球大学）	2 月 28 日（木）	5	12



2019 年度 関東支部総会開催のご案内

関東支部 支部長 松居辰則（早稲田大学）

教育システム情報学会関東支部の総会を、2019 年 5 月 11 日（土）に開催いたしますので、支部会員の皆様にはご出席くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。総会への出欠の確認・委任状につきましては、後日メールにてご案内いたします。

なお、この総会は、教育システム情報学会 2019 年度第 1 回研究会の中で開催させていただきます。

記

【日程】2019 年 5 月 11 日（土）

【場所】キャンパス・イノベーションセンター東京

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

<http://www.cictokyo.jp/index.html>

JR 山手線・京浜東北線田町駅から徒歩 1 分。都営地下鉄浅草線・三田線三田駅から徒歩 5 分。JR 田町駅芝浦口から右方向の階段をおりてすぐ。東京工業大学附属科学技術高等学校正門のとなり。



学 会 誌 特 集 号 論 文 募 集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 小西 達裕（静岡大学）

「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」

論文投稿締切：2019 年 6 月 3 日

2020 年 4 月 1 日 発行予定

人工知能や IoT の新しい技術は，社会の様々な分野で革新をもたらしつつあります．人工知能技術は，人の膨大な量の学習記録から機械的に特徴を見い出すことで，これまでの常識を超える知見を提示しています．また，ネットワークに接続するデバイスの活用は，これまでには実現できなかった新しいサービスを創出しています．こうした社会への大きなインパクトは，教育システム情報学の領域においても，これまでにない発想による新しい学び方，新しい教え方，新しい教育の管理をもたらすと期待を集めています．本特集号は，「人工知能，IoT がもたらす新たな学習・教育・管理の促進」に関する研究論文を募り，新しい教育システム情報学の知識構築を目指します．

1. 対象分野

人工知能，IoT 技術を駆使する，人の学習に関する研究，人の教育に関する研究，教育管理に関する研究を募集します．機械学習やビッグデータ，データマイニング，ロボットを活用・応用する研究や，IoT を駆使する研究，ラーニング・アナリティクス，学習・教育の調査・分析・予測，学習・教育の管理，教育の IR です．これらキーワードの周辺を含め広く募ります．

2. 論文種別

すべての種別（一般論文，実践論文，ショートノート，実践速報）の論文を募集します．なお，査読を通して，異なる種別での採録となる場合があります．

また，内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります．

3. 投稿要領

学会誌原稿執筆要領に準じます．詳細は学会 Web ページをご確認ください．

投稿の際は，次の点にご注意ください．

- 「投稿種別」について「特集号」を選択ください．
- 特集論文研究会で発表された方は，投稿情報入力の際，「事務局への連絡事項」の欄に，特集論文研究会の発表題目，発表番号を記入下さい．
- 英文で投稿される場合は，本学会英文誌へ投稿ください．

4. スケジュール

論文投稿締切： 2019 年 6 月 3 日（月）

採録通知予定： 2019 年 11 月初旬頃

学会誌掲載： 学会誌 Vol. 37, No. 2, 2020 年 4 月 1 日発行予定

5. 編集委員

委員長： 小西 達裕（静岡大学），委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 松田 憲幸（和歌山大学）

E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

Web投稿： 編集事務局

電話： 03-5389-6492

E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献社 長澤



教育システム情報学会英文誌論文募集 (Vol. 19 5月募集)

担当者： 英文誌編集委員会

※J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise>

※J-STAGE を通して、Google Scholar, CiNii を初めとする国内外の主要な検索エンジンや学術情報サービスと連携しており、掲載された研究成果は国際的にも認知可能となります。

教育システム情報学会では、2002 年から毎年定期的に英文誌:The Journal of Information and Systems in Education を発行しています。2011 年からは、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルに移行し、国際的な発信力を強化しています。このたび、Vol. 19 に掲載する論文を募集いたします。教育システム情報に関連した領域全般を対象としておりますので、是非、この機会に多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと思います。下記の要領に沿って、ご投稿いただきますよう、お願いいたします。

○論文種別：

一般論文(Regular Paper)、実践論文(Practical Paper)、
ショートノート(Short Note)、実践速報(Report on Practice)

○投稿締切：

2019 年 5 月 31 日

締切までに投稿いただいたものは、2019 年 12 月末までに採録の可否を決定・通知する予定です。採録された論文については校正等の手続きを経たうえで順次 Vol. 19(2020)に掲載させていただく予定です。

○投稿要件

- ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
- ・投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。

○原稿執筆要領：

英文論文誌もしくは下記の URL を参照してください。

<http://www.jsise.org/journal/pdf/AuthorsInstruction.pdf>

○投稿方法

※電子投稿システムを利用して投稿を行ってください.

- ・ 下記 URL より電子投稿用 Web ページにアクセスしてください.

https://bunken.org/jsise/journal_e/applicant/login.html

- ・ 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行ってください.
- ・ 投稿論文は下記のテンプレートファイル (Word 文書) を用いて作成し、PDF ファイルに出力してアップロードしてください.

<http://www.jsise.org/journal/doc/JSiSE-EPaper-Template140415.doc>

※査読・判定結果の言語の希望 (英語または日本語) がありましたら、電子投稿システムの「Comments to the Editorial Office」欄に記入してください. なお、希望にそえない場合がありますので、予めご了承ください.

○編集委員会

委員長：平嶋宗 (広島大学)，副委員長：鷹岡亮 (山口大学)，幹事：国近秀信 (九州工業大学)，小島一晃 (帝京大学)，委員：稲葉利江子 (津田塾大学)，入部百合絵 (愛知県立大学)，加島智子 (近畿大学)，小暮悟 (静岡大学)，林佑樹 (大阪府立大学)，平井佑樹 (信州大学)，松浦健二 (徳島大学)，宮澤芳光 (東京学芸大学)，八重樫理人 (香川大学)



科研費申請支援（研究活動スタート支援）

人材育成委員会 瀬田和久（大阪府立大学）、越智洋司（近畿大学）

科研費申請支援制度は、JSiSE 理事，科研審査経験がある学会員などが採択に向けたコメントを提供するものです。当該分野のシニア研究者からコメントを貰える点が特徴です。また，1 週間程度を目標に素早くコメントを提供します。今回の募集は，研究活動スタート支援が対象です。

「研究活動スタート支援」は、我が国の研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰した研究者等が行う研究をサポートするものであり、これらの研究者の当座のスタート支援に資することが期待されます（https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_startup_support/koubo.html より抜粋）。

- 事前に下記エントリーサイトに必要情報をご記入頂いているとその後の流れがスムーズです。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScfdtFGJely8JmVMQY8yeXB7x2wnHbJp-skJHuC9W1z_Xe4QA/viewform

- 2018 年全国大会プレカンファレンス「採択される科研費申請書の書き方と科研費申請支援制度」の講演資料が下記 URL にて公開されています。制度内容をまとめているので事前にご一読の上ご活用ください。 <http://www.jsise.org/y-support/index.html>
- 大まかなスケジュールは，以下の通りです。所属機関により提出時期が異なることを踏まえ，提出期間に幅を持たせています。

4 月上旬頃：エントリー（代表者氏名，タイトル，応募領域等の基本情報の提出）

※ エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが，事前にご入力頂いておけば，
コメンテータに書類を迅速にお送りできます。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScfdtFGJely8JmVMQY8yeXB7x2wnHbJp-skJHuC9W1z_Xe4QA/viewform

4 月中旬頃：申請書提出

【提出があり次第，コメンテータに申請書を送付します。】

4 月下旬頃：コメント送付

【各コメンテータから提出があり次第，コメントをお返します。】

- 提出：jsise-y-support@jsise.org まで，

申請書の Word または PDF をお送りください（予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが，プレゼンテーションに関するコメントを提供する観点からは，ある程度，内容が固まっている，読み取れる段階でご提出いただくのが望ましいと思われます。）

※ 学会及びコメンテータは申請書に記載された内容について守秘義務を負い，第三者に情報を漏らすことはありません。

- 問い合わせ先：jsise-y-support@jsise.org



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得となっております。

- ・年間購読:4,000 円(定例研究会年 6 回, 特集研究会 1 回, 計 7 回分を含む)
- ・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。 すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



教育システム情報学会研究会における 不適切な質問等への対応について

教育システム情報学会 研究会委員会

教育システム情報学会研究会は、教育システム情報学に関わる最新の研究や実践に関する情報交換および意見交換を通して、学会の発展、ひいては当該研究分野の発展において極めて重要な役割を果たしています。さらに、専門領域の近い研究者による緊密なネットワークが大学や研究機関を越えたところで構成されているため、若手研究者の発掘や育成、今後社会に出る学生の教育の場としても、研究会の重要性は非常に大きくなっています。

こうした研究会においては、様々な立場の参加者が自由闊達に議論できることが最も重要です。一方で、意見交換や育成・教育の範囲を大きく逸脱して、研究方法や研究分野、さらには発表スタイルなどを問題とする質問等を執拗に行い、発表者や聴講者に不快感や不利益を与えることは厳に慎まなければなりません。こうした問題が放置されると、研究会への参加だけでなく、学会活動全般、さらには教育システム情報学への関心の拡大に大きな悪影響を及ぼします。

教育システム情報学会研究会においては、意図の有無に関わらず、正当な根拠なく相手に不利益を与え、相手の尊厳を侵害する行為があった場合に、研究会担当委員および座長担当者が、質問の制止や質問者に退席の指示を行えるものとしています。研究会の参加者だけでなく、研究会に関連する全ての人々が快適で安心して研究会に寄与できる環境を維持し、研究分野のさらなる発展と、これを通じた社会貢献を行うために、研究会における皆様の建設的な質疑へのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

関東支部より活動報告

学生研究発表会（関東地区）グループワーク開催報告

2018 年度 学生研究発表会関東地区実行委員

2018 年度 JSiSE 学生研究発表会（関東地区）は、2019 年 3 月 4 日から 5 日にかけて、神奈川県湯河原のホテルあかねにて開催され、盛況のうち無事に閉会いたしました。関東地区では昨年度に引き続き合宿形式での口頭発表（12 件）とグループワークを実施いたしました。ここでは学生研究発表会（関東地区）の特徴的な取り組みとして 2016 年度から実施しているグループワークの、今年度の様子についてご報告いたします。

今年度のグループワークでは、これまでの研究活動の意義を踏まえて、次のステップで自身の研究活動をどのように活かせるかを言語化することを目的に、「自分たちが研究を通して出来るようになったことを、産業界と学術界それぞれに PR する」というテーマで、2 日間のうち約 4 時間をかけて資料を作成しました。活動は、事前に準備した資料を用いてグループで研究経験を共有することから始め、研究会の参加教員へのインタビューなどを通して産業界と学術界のニーズ調査を実施するとともに、自分たちの強みと貢献を考えるという流れで、検討を行いました。

グループワークの成果発表に対しては、今年度から、「自分たちの研究経験の分析は十分か」、「PR 内容の根拠は妥当であるか」、「PR 内容は学術界のニーズに対して適切か」、「PR 内容は産業界のニーズに対して適切か」の 4 観点で審査員による採点も行い、全チームが全ての観点で「良い」以上の評価となりました。各グループの発表は、社会人基礎力に対する強みと自己調整学習支援研究への貢献という産業界と学術界それぞれへの PR、産業界と学術界に共通する「人材育成」というニーズに対するメンバーの研究を組み合わせた PR、メンバーの研究から「モチベーション」という共通項を見出した上で産業界と学術界での貢献場面を紹介した PR の 3 種類でした。

研究会終了後に行った参加学生へのアンケートを実施したところ、アンケート回答者 8 名全員から、グループワークの活動が「今後の自分の活動にとっても役立つ」または「今後の自分の活動に役立つ」という好意的な回答がみられました。また、合宿研究会全体についても、全員から「とても有意義だった」または「有意義だった」との感想がありました。さらに、自由記述には、今回のグループワークが今後の研究のモチベーションや就職活動に繋がると参加学生に捉えられていることが読み取れる意見をいただきました。しかし、「グループワークの時間について検討をして欲しい」、「課題に取り組む前の交流的活動を作って欲しい」という今後に向けた意見もありました。

関東地区では、来年度も合宿形式の学生研究発表会を予定しており、グループワークも引き続き実施する予定です。今年度の参加学生の貴重な意見を元に、将来的に役立つグループワークの実施に向けて、アンケートの分析と企画の検討を進めていきます。

以上



Twitter アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より，全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました．本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております．本学会へのご質問・お問い合わせは，学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします．また，Facebook アカウントとの連携も行っており，Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので，ぜひご活用（フォロー）ください．

<https://twitter.com/JsisePr>

✧ 2019 年 3 月 25 日現在，フォロワー数 222 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています．本ページでは，

- ・ 論文・発表募集
- ・ 本学会に関連するイベントの情報

などを，いち早くお届けします．ぜひ，ご覧下さい．

Facebook ユーザの方は，ぜひ，「いいね」をお願いいたします．

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

✧ 2019 年 3 月 25 日現在，いいね 361 件，385 人フォロー





他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛 「2019 年度工学教育研究講演会」

日時：2019 年 9 月 4 日（水）～6 日（金）

会場：東北大学川内北キャンパス

後援 「全国高等専門学校第 30 回プログラミングコンテスト」

日時：2019 年 10 月 13 日（日）～14 日（月）

会場：都城市総合文化ホール



会費納入のお願い

2月上旬に2019年度会費納入のお願いをメールでお送りしましたので、納入をお願いします。2018年度会費未納の方はそちらも合わせてお願いします。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いします。

「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【2018 年度あるいはそれ以前の会費を支払われていない方】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に 2018 年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、定款の定めに従って除名手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、
入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。 2019 年 1 月 23 日～2019 年 3 月 25 日

会員名	会員種別
江原 遥	正会員

(計 1 名)